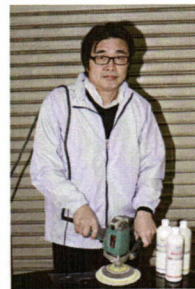


G&T社長・竹内宏の
磨き作業が楽しくなる!
**失敗しない
磨き術**
- 試行錯誤の磨き体験記より -

竹内宏 (たけうちひろし)

ジーアンドティー代表取締役。1961年生まれ。1980年にマツダオート大阪へ入社し、1984年に独立し保険代理店兼中古車販売業を営む傍ら、カーディテリングに触れる。1987年に廃業し、テロソココーポレーションのグループ会社にカーディテリングの本部社員として入社。大手カー用品店にコーティングビジネスを提案し、自らも実験店で現場作業に従事する。その後自動車補修用品の営業経験を積み、2003年に再び独立してジーアンドティーを設立。サンマイト社サンドペーパーの東日本代理店として磨き関連商品を販売しながら、講習会を積極的に開催するなどアフターケアを重視した営業手法を展開している。



[第1回] 「失敗しない磨き」の考え方



「失敗しない磨き」は
仕上がりのレベルの
設定から始まる

さて、第1回目は、タイトルの通り「失敗しない磨き」の考え方についてお話しします。

磨きに限らず何事も、完成時のイメージを最初にしっかり持っているかどうかで、その作業の準備から工程まですべて変わってきます。なんとなく作業を進めた結果完成するのではなく、完成させるためにはどのような工程を消化し、前もって何を準備しておくべきかを、あらかじめイメージすることが重要です。

塗装や钣金はしっかりイメージできている人も、こと磨きとなると、なんとなく始めて、途中で「あれ? 今日は何でかうまくいかないな」と言いながら、パフやコンパウンドを変えてみたり、元の工程に戻ったり、場合によっては磨きすぎて頭を抱える場合もあると思います。

「俺はそんな下手はしないよ」と言う方も、果たして最短手順で仕上がっているかどうかは分かりません。もちろん私自身も、初めて訪問した工場いきなり「今、塗装したこのパネルを最短で仕上げてみる」と言われても、うまくいくかは分かりません。

しかし、いくつかの情報をいただければ、それなりに仕上げる自信はあります。その情報とは、

1. クリヤーの種類 (特性)

今回、ポデーショプリポート編集部より、「磨き」に関する技術連載の依頼があり、お引き受けるか、少し悩みました。

というのは、これまでの技術関連の連載を読んでみると、現場の専門家か、メーカーの技術者の方が多く、化学や塗装技術の専門家でもない私が、「果たしてどのように誌面を理めれば良いのか?」と考えたからです。

BSRにその旨を伝えましたら、「今回は科学技術理論的なアプローチではなく、経験実践的な、

ま 言わば体験談的なアプローチで企画してみたい」ということでした。それならば、「Hごろ講習会で钣金塗装工場の皆様にお教えしている内容を誌面にまとめよう」と考え、普段はお喋り先行の私ですが、一念発起、連載を引き受けることにしました。

え せつかつく機会ですので、過去の講習会で伝えきれなかったことや、今なお私自身が悩んでいることも交え、少しでも読者の皆様が実作業に臨む上でお役に立つようなお話をしたいと思います。